



## 「新しいことを取り入れながら」

校長 曾我 泉

学校では、来年度に向けた準備が進んでいます。

令和2年度から小学校では学習指導要領が変わり、学校現場での様子が変わってきました。教科書を見ると、変化に気付くこともあるかもしれません。

渋谷区の教育も少しずつ新しいことが取り入れられています。例えば、「シブヤ科」や「デジタルシチズンシップ」という言葉が、今年度の学校評価には項目として挙がっていました。

「シブヤ科」は、渋谷プライドを醸成し、渋谷を知り、渋谷や世界で活躍する人材を育成することにつなげていく学習です。3～6年生の総合的な学習の時間を中心に学習を展開しています。渋谷のことや西原地区のことを知ることはもちろんのこと、そこから課題を見付け、探究的に解決して行く学び方も学びます。それは、「問題発見・解決能力」「情報活用能力」「言語能力」を活用しながら、教科横断的な学びの姿になります。夏休みの自由研究では、STEAMの校長賞を設定しました。これも、探究型、教科横断的な学習の一つのパターンと言えることでしょう。シブヤ科は、国語や算数といった教科とは違います。テーマの一つです。教科での学びを生かしながら解決していくことが求められています。とはいえ、令和3年から始まった取組は、まだまだ、教材開発をしている途中であると、言わざるを得ません。来年度からは名称を「シブヤ未来科」として、さらなる充実を図ることになっています。教師も意識して、子供たちの学びを考えていきます。

デジタルシチズンシップは「デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力のこと」といわれています。これまでは、デジタルモラル教育など、規範の中でどう使うかを学ぶことが多く、どちらかというと怖さを知る学習が行われてきました。それももちろん継続されながら、リテラシーも含め、積極的に適正にデジタルを活用しながら問題解決や情報発信に役立てていこうとする力を養っていこうとしています。

そう考えると、シブヤ科もデジタルシチズンシップも、子供たちが社会に出た時に必要な能力となることをどう育成するか考えた学びになります。社会の変容に合わせて、学校教育も変化し続けます。

渋谷区では、学習指導要領の趣旨の一つである「社会に開かれた教育課程」を受け、子供たちを多くの力で育てていこうとしています。コミュニティスクールの取組も4年目となりました。さまざまな形で学校以外の方にゲストティーチャーとしてかかわっていただくことも増えました。これからも保護者地域の皆さんとの連携を図りながら、一体となって子供たちの成長を進めていきます。

### 2月の目標

#### 【生活目標】

寒さに負けず元気よく外で遊ぼう

#### 【保健目標】

室内の換気をしよう

#### 【給食・食生活】

食事の環境を見直そう

### シブヤ科にご協力を

シブヤ科・キャリア教育の取組の一つとして6年生が、仕事調べを行います。子供たちに「仕事」と聞くと、聞いたことがある職業名が上がってきます。多様化する社会の状況を知るためにも、保護者の皆さんからゲストティーチャーとしてお話をしていただく機会を作ることになりました。学校で、子供たちに、「仕事」について、お話しいただけませんか？ホーム&スクールでアンケートを募ります。ぜひ、ご協力ください。